

情報活用能力としてのねらい	活用できる教科や学習活動
D7：情報社会の将来	LHR、情報

## 道徳または総合的な探究の時間

- ・災害発生時に備え、自分にできることは何かを考える。
- ・情報を比較・検討し、要点を伝えることについて事例を基に考える。

時間	学習活動	準備物・留意点等
15分	<p><b>1. 考えてみよう</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     災害時に家族と連絡を取るために、事前にどのような準備をすればよいでしょうか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の発生状況について読み上げる。</li> <li>・家族がスマホを使えなくなった状況も想定し、SNSを使う場合と使わない場合の複数の方法を考えさせる。</li> <li>・グループで共有させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>
15分	<p><b>2. 考えてみよう</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     災害の状況を正しく把握するために有用なサイトや、SNSのアカウントを調べてみよう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットで、災害時に役立つサイトやアカウントを調べさせる。</li> <li>・グループやクラスで共有させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>
15分	<p><b>3. 考えてみよう</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     災害時に情報を取りまとめて伝えるときの注意点を考えよう。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難状況について読み上げる。</li> <li>・集めるときの注意点や相手に短時間で伝えるために情報を整理するときの注意点を考えさせる。</li> <li>・グループやクラスで共有させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>
5分	<p><b>まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業で学んだことを記入する。</li> </ul>	

・災害時には通信が集中し、これまで使用していたサービスが使えなくなる可能性があるため、日頃から災害用伝言板などの使用について確認しておく必要があることや、災害時にネットワーク名（SSID）「00000JAPAN」を選択すれば、各社の公衆無線LANを無料で使えるようになることなどを調べるよう助言する。

・災害時には、ウソやデマに惑わされないように、情報の発信者を確認する必要があることに気付くようにする。また、政府や自治体などは普段から災害情報などを発信しているため、こうしたアカウントを活用することについて考えるようにする。

・防災ブック等を参考にさせる。

・多くの情報を収集・整理し、短時間で伝達するために、どのような視点が必要かを考え、話し合いにより共有させる。

アドバイザーのコメント

近年、スマートフォンの普及とともに急速にSNSの利用が広がり、災害発生時における情報収集手段や連絡手段としてもSNSが活用されるようになったことで、防災においてもSNSの重要性がより高まっています。一方で、災害時は不安や混乱から、誤った情報や不安を煽るような情報、いわゆるデマやフェイクニュースがネット上で拡散されやすく大きな問題となっています。そこで災害時にどのように情報を収集し、どのように発信すればよいか、自身がデマやフェイクニュースの拡散元とならないように考えさせることがポイントになります。

情報モラル

災害時のSNSの利用

あなたは、友人と自然豊かな観光地に旅行に来ています。夕暮れ時、観光地で休んでいると、突然、スマホから緊急地震速報の音が鳴りました。すぐに今まで経験したこともない大きな揺れがありました。大きな揺れは数十秒続き、揺れが収まった後、周囲を見ると、倒壊した建物が目に入りました。大地震が起きたことが分かりました。

2時間後、地元の方の誘導で、ある建物に避難しました。地元の方や観光客など、十数人が集まっています。あなたは、家族の安否が心配になり、家族に電話しましたが、つながりませんでした。

1.考えてみよう 家族と連絡を取るために、事前に必要な準備を考えてみよう

家族がスマホを使えなくなった状況も想定し、SNSを使う場合と使わない場合の、複数の方法を書きましよう。

あなたは、今の状況を知るためにスマホを操作しました。非常に大きな地震が起きたことは分かりましたが、自分のいる地域がどういう状況なのか分かりません。

そのうち、避難している人たちが、「山の向こうにある化学工場が爆発したらしい。ここも危険だ。」と叫び始めました。あなたはネットで調べてみましたが、そのような情報は見付かりませんでした。あなたは、本当だろうかと疑問をもちました。

2.考えてみよう 災害時に有効な情報源をあげてみよう

災害時には、信頼のないうわさに惑わされ、誤った行動を取ってしまうことがあります。災害の状況を正しく把握するために有用なサイトや、SNSのアカウントを調べましよう。

52

避難して二日目の夜を迎えました。水や食料は足りていますが、おむつや持病の薬が不足しているようです。避難所の責任者は、食料・物資の状況について、関係機関とすぐに連絡を取らなければいけないと考えています。あなたは、もしも自分が責任者だったら、避難所の状況をどのように把握し、どのように伝えるだろうかと考えました。

3.考えてみよう この事例のようなときに、情報を取りまとめで伝えるときの注意点を考えよう

食料・物資の情報を集めるときの注意点	
相手に短時間で伝えるために、情報を整理するときの注意点	

1 スキルのポイント 「だいふく」で情報を見極めよう

災害時には、情報収集手段や連絡手段としてもSNSが活用されるようになりました。しかし、災害時は不安や混乱から、誤った情報や不安を煽るような情報、いわゆるデマやフェイクニュースがネット上で拡散されやすくなります。そこで誤った情報を見抜くためのキーワードとして、「だいふく」を意識してみてください。

「だ」は「だれが言ったのか」、「い」は「いつ言ったのか」、「ふく」は「複数の情報を確認したのか」です。どんな人が、いつ言ったのか

を複数の情報に当たりながら検討することで、誤った情報を見抜くだけでなく、誤った情報を拡散するリスクを減らすことができます。

だ れが言ったの? い いつ言ったの? ふく 複数の情報を確認したのか?

24

69